

科目名	看護学概論	単位(時間)	1(30)	28期生	DP
担当講師名	平野 ゆき子[看護師]			1年	1・2・3
				前期	
ねらい	看護学全体の基本的内容から看護学の本質を理解すると同時に、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、関心が高まり、各看護学への学習意欲をもつことができる。				
科目目標	①看護の本質と看護理論、および看護の提供者について理解できる。 ②看護の対象と健康について理解できる。 ③看護における倫理について理解できる。				
授業内容	次	内容		担当者	備考
	1 2	看護とは	1. 看護の定義 2. ケアリング 3. 看護の変遷	平野	講義
	3 4 5 6	看護理論と主要概念	1. 看護理論家にみる主要概念 2. 看護理論をもとに看護の本質を考える 3. 看護理論を活用した看護の提案		講義 演習 発表
	7	看護の対象と健康	1. 看護の対象の理解 2. 健康のとらえ方と国民の健康状態		講義
	8 9 10 11	看護における倫理	1. 看護実践における倫理問題への取り組み 2. 看護学生と倫理		講義 演習
	12 13	社会と看護	1. 看護サービス提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策		講義
	14	多職種連携	1. 多職種連携演習		※
	15	試験・まとめ			
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護覚え書(現代社) 実践に生かす看護理論19(医学芸術社) 看護者の基本責務 看護の基本となるもの				
学習を支える情報	1. 看護理論についてグループワークを行いながら、看護を学びます。 2. 教科書を熟読しながら、学習をすすめていきましょう。 3. 厚生統計協会「国民衛生の動向」や厚生労働省ホームページを活用しましょう。 ※保健医療福祉チームにおける多職種連携演習では、日本大学松戸歯学部衛生専門学校の学生、本校第二看護学科の学生とグループワークを行います。令和5年6月30日(金) <参考図書>看護六法				
評価	課題は評価日にの8:50までに提出がない場合、評価対象とならない。			試験	70
				課題	看護理論20
					多職種10
合計	100				

科目名	基本技術 I		単位(時間)	1(30)	28 期生	DP	
担当講師名	友常 麻衣子[看護師] 高橋 一昭[医師・非常勤講師] 大久保 実[非常勤講師] 柳澤 いずみ[看護師] 奥山 真美子[看護師]				1年 前期・後期	2・3	
ねらい	1. 基礎的な救命救急に関する知識と技術を取得し、フィジカルアセスメントにつなげることができる。 2. フィジカルイグザミネーションの技術を取得し、対象を把握する意義を理解することができる。 3. 基本的な感染予防の技術を習得し、対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。						
科目目標	①基礎的な救命救急として、一次救命処置の重要性を説明できる。 ②心肺蘇生法として、胸骨圧迫・人工呼吸・AED使用及び回復体位について、手順に沿って実施できる。 ③フィジカルイグザミネーションの意義と看護の役割を理解できる。 ④安全・安楽・正確にバイタルサインを測定できる。 ⑤対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。						
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考	
	1 2	一次救命処置の基礎知識	1. プレホスピタルの重要性 2. 一次救命処置の方法 1)心肺蘇生法(CPR/AED) 2)気道異物の除去 3. ファーストエイド		高橋	講義・演習 (基礎実習室)	
	3 4	心肺蘇生法	BLSコース *実技試験を含む		大久保	講習・演習 (基礎実習室)	
	5	ヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーションとは 2. 身体計測 1)身長計測 2)体重計測 3)腹囲計測 4)皮下脂肪計測 3. 問診(健康歴の把握)		友常	講義・演習 (基礎実習室)	
	6	フィジカルアセスメントに必要な技術	1. 身体診察 1)視診 2)触診 3)打診 4)聴診			講義・演習 (基礎実習室)	
	7 8 9	バイタルサインの測定	1. バイタルサインとは 2. バイタルサインの観察とアセスメント 1)体温 2)脈拍 3)呼吸 4)血圧 3. バイタルサインに影響する因子 4. 患者に合ったバイタルサインの測定の方法を考える。			講義・演習 (基礎実習室)	
	10	バイタルサイン測定の意義と看護の役割	1. バイタルサイン測定の意義 2. 看護の役割			グループワーク	
	11	安全・感染予防の基礎	1. 標準予防策 2. 感染予防の基礎知識		奥山	講義・演習 (基礎実習室)	
	12 13	感染予防の技術	1. 感染経路別予防策 2. 無菌操作 3. 感染性廃棄物の取り扱い 4. 医療安全とは			講義・演習 (基礎実習室)	
	14	安全の意義と看護の役割	1. 安全の意義 2. 看護の役割			グループワーク	
	15	試験・技術試験			各担当		
	テキスト	基礎看護技術 I・II (医学書院)					
	学習を支える情報	1. 基本技術 I は全ての看護に共通する技術の基礎を学びます。常に患者の立場を考えながら根拠を伴った確かな技術を習得しましょう。 2. 日常生活の中でも私たちは救命の現場に立ち会うことがあります。基本的な救命処置について学習し、急変時に対する対応について修得していきましょう。また、将来看護師を目指す立場として看護学生としての自覚を更に高めていきましょう。 3. BLSで得た気づきや基礎知識から対象者の状態の変化を瞬時に察知できる観察力、必要な看護援助(フィジカルイグザミネーション)へとつなぐ能力を養っていきましょう。 4. フィジカルイグザミネーション:バイタルサイン測定には五感を使うこと、血圧計や聴診器等の取り扱いに慣れることが大切です。また、トレーニングすることで必ず上達します。自主的にトレーニングを重ね、技術の上達を目指しましょう。解剖生理の知識が必要となります。授業の復習をすると共に疑問点は主体的に学習しましょう。 5. 安全・感染予防:これから学ぶ技術の全てにおいて、安全・感染予防を考慮していきます。根拠と共に確かな技術を習得しましょう。 6. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)					
	評価	・評価項目の試験・技術試験・レポートそれぞれ60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。 ・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。 ・技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。				試験	フィジカル 25 安全 25
						技術試験	30
レポート						20	
合計						100	

科目名	基本技術Ⅱ		単位(時間)	1(20)	28期生	DP
担当講師名	田中 和子[看護師] 市原 篤美[看護師] 矢野 聖実[看護師] 平野ゆき子[看護師]			1年	1・2	
				前期・後期		
ねらい	1. 基本的なコミュニケーション、記録・報告の技術を取得し、対象を把握する意義を理解できる。 2. 患者が安楽に過ごすための援助方法を習得し、看護の役割を理解できる。					
科目目標	①看護における基本的なコミュニケーションの必要性を理解できる。 ②記録の目的や機能・構成を理解できる。 ③患者が安楽に過ごすための援助方法を習得し、安楽の意義と看護の役割を理解できる。					
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考	
	1	コミュニケーション	1. 看護場面でのコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素・成立過程 3. 看護師に必要なコミュニケーション能力とは 4. 患者一看護師関係構築のためのコミュニケーション技術 5. 看護カウンセリングの基礎 (傾聴・共感・受容・承認)	田中	講義 グループワーク (発表)	
			2			
	3	記録・報告	1. 看護記録の法的位置づけ 2. 看護記録の目的・機能・管理 3. 看護記録の構成	市原	講義 グループワーク	
			4			
	5 6	安楽の技術	1. ポジショニング 2. リラクゼーション	平野 矢野	講義・演習 (基礎実習室)	
	9	安楽の意義と看護の役割	1. 安楽の意義 2. 看護の役割	各担当	グループワーク	
	10	試験				
	テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院)				
学習を支える情報	1. 基本技術Ⅱは全ての看護に共通する技術の基礎を学びます。常に患者の立場を考えながら根拠を伴った確かな技術を習得しましょう。 2. コミュニケーション:看護を行うために基盤となる技術です。人間関係論・心理学での学びを想起し学習に活かしましょう。 3. 記録:対象を理解する方法の一つとして、また医療チームの一員として必要となる大切な技術です。 4. 患者が安楽に過ごすための援助について様々な方法を学んでいきます。患者体験を大切にしながら、患者の安楽と看護の役割について、グループワークを通じて考えていきましょう。 5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。  <参考資料>・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)					
評価	演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。 技術を伴う演習は、すべて出席することで試験を受けられる。			試験	コミュニケーション	40
					記録・報告	30
				安楽	30	
				合計	100	

科目名	看護の展開技術 I		単位(時間)	1(20)	28期生	DP
担当講師名	市原 篤美 [看護師]				1年	2・4
					後期	
ねらい	1. 健康障害や治療・療養生活が患者に及ぼす影響と患者の願いを捉える意味が理解できる。 2. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える方法が理解できる。					
科目目標	①看護の基盤となる考え方と構成要素について理解する。 ②看護過程の意義と構成要素が理解できる。					
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考
	1	看護過程の基盤となる考え方	1. 問題解決過程とは 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション		市原	講義
	2   8	看護過程の各段階	1. 情報収集 2. 情報の整理 3. 情報の分析・解釈 4. 全体像・統合 5. 患者の願いを捉える ～ビジョン・ゴールの設定 6. 課題・戦略の設定 7. 看護実践 8. 評価・修正			講義・演習
	9	看護過程とは	1. 看護過程とは			講義
	10		試験			
テキスト	基礎看護技術 I (医学書院)					
学習を支える情報	1. この科目では、看護を展開するために必要な思考過程についての基礎的な知識を学んでいきます。既習の基礎科目・専門基礎科目をはじめ、看護学概論・基本技術 I・生活援助技術や、その他の専門科目の知識を活かし、科学的な根拠に基づいた看護の展開方法を理解していきましょう。 2. 思考過程を活用しながら患者の思いや生活の状況を捉え必要な看護を考えていきます。実習や学内での学びを想起しながら学習に取り組んでいきましょう。 3. この科目は基礎看護学実習Ⅱや各領域の看護を学んでいく基礎となる科目です。患者をより理解していけるよう主体的に学んでいきましょう。 4. 講義やグループワークをしながら学びを深めていきます。グループでの意見交換は思考の広がりや深まりに大切になってきます。グループで協力し互いに高め合って学習を進めていきましょう。 <参考資料> ・看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 (学研) ・看護がみえる④ 看護過程の展開(メディックメディア) 他 看護理論・薬剤・検査・疾患・症状に関する図書					
評価	・評価の試験・課題それぞれ60%以上の評価を取ることが単位習得の条件となる。 ・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。				試験	60
					課題	40
					合計	100

科目名	看護の展開技術Ⅱ	単位(時間)	1(30)	27期生	DP
担当講師名	市原 薫美[看護師]			2年次	1・2・4
				前期	
ねらい	看護の思考過程に基づき患者を捉え、看護場面から「気づき」「解釈」「反応」「省察」のプロセスをとおして、臨床判断能力の基礎を養う。				
科目目標	①看護の思考過程に基づき、患者の看護を考え・実践することができる。 ② 臨床判断モデルとその構成要素について理解することができる。 ③ 看護場面から臨床判断モデルを活用し、看護実践につなげることができる。				
授業内容	次	単元	学習内容	担当者	方法
	1	ガイダンス	ビジョンゴール・事例提示	市原	講義
	2	1. 患者を捉える 2. 看護場面における臨床判断とは 3. 判断能力の活用	情報収集 / 「気づき」とは		講義 演習
	3		情報収集・整理①		
	4		情報収集・整理②		
	5		情報の分析①/ 「解釈」「反応」「省察」とは		
	6		情報の分析②		
	7		情報の分析③		
	8		全体像の把握/患者の願いを捉える		
	9		看護実践① 臨床判断能力の活用		
	10		看護実践② 臨床判断能力の活用		
	11		看護実践③ 臨床判断能力の活用		
	12		看護実践④ 臨床判断能力の活用		
	13		評価・修正		
	14		看護の思考過程と臨床判断能力		
15	試験・再構築				
テキスト	看護がみえる vol4 看護過程の展開 (メディックメディア)、基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 (医学書院)				
学習を支える情報	1. 看護の展開技術Ⅰで学んだ思考過程を活用し看護を考えると同時に、ある場面においてはシミュレーション学習を取り入れ、看護実践につながる臨床判断について学んでいきます。これまでの、実習や学内演習からの学びを想起しながら、主体的に学びましょう。 2. これまで学習してきた基礎科目・専門基礎科目・基礎看護学概論・基本技術Ⅰ・生活援助技術・看護の展開技術Ⅰ 他の専門科目の知識を活かし、統合して看護を考えていきましょう。 3. この科目は、その後の講義や各領域の実習につながっていきます。リフレクションノートを活用しながら、自ら学習課題を発見し課題を解決する力を身に付けていきましょう。 4. フィジカルアセスメントや生活援助技術で習得した技術を活用していきます。技術を復習し、積極的に演習に臨みましょう。 5. グループワークを中心に進めていきます。グループでの意見交換が思考の広がりや深まりに大切です。グループで協力し互いに高め合って学習を進めていきましょう。  <参考資料> ・看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 (学研) ・看護がみえる④ 看護過程の展開(メディックメディア) 他 看護理論・薬剤・検査・疾患・症状に関する図書				
	・演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件である。			試験	70
	・評価項目の試験・課題それぞれが60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。			課題	30
	・技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。			合計	100

科目名	生活援助技術Ⅰ 「環境」「活動・休息」	単位(時間)	1(30)	28期生	DP	
担当講師名	矢野 聖実 [看護師] 奥山 真美子 [看護師]			1年 前期	1・2・4	
ねらい	患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法を習得し、環境調整の意義と看護の役割を理解できる。 患者にとって安全・安楽・自立に向けた活動・休息の援助方法を習得し、活動・休息の意義と看護の役割を理解できる。					
科目目標	①環境を調整する意義と看護の役割が理解できる。 ②活動・休息の意義と看護の役割を理解できる。 ③安全・安楽に病床を整えることができる。 ④安全・安楽・自立を考慮した移動・移送の援助ができる。 ⑤様々な状態に合わせた看護援助を考えることができる。					
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考	
	1	病室の生活環境	1. 療養生活の環境 2. 病室の環境のアセスメント	矢野	講義 グループワーク	
	2	病室の環境を整える技術	ベッドメイキング		講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	3 4		シーツ交換			
	5		環境整備			
	6	環境の意義と看護の役割	1. 環境の意義 2. 看護の役割		講義 グループワーク	
	7	人間の自然な動きと基本動作	1. よい姿勢とボディメカニクス 2. 体位 3. 活動と運動のアセスメント	奥山	講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	8 9	活動と運動を促す援助	1. 体位変換 2. 移動・移送の援助 (車いす・ストレッチャー・歩行介助)		講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	10				講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	11	活動の援助の意義と看護の役割	1. 活動・休息の意義 2. 看護の役割		講義・演習 (基礎実習室)	
	12 13	様々な状態にある人の看護援助	事例検討		奥山	講義・演習 グループワーク
	14		安全・安楽・自立を考慮した援助とは (発表)			
	15		試験・技術試験	担当教員		
	テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				
	学習を支える情報	<p>1. 自己の生活を振り返り、人間にとっての環境調整や活動・休息の意義を考えましょう。</p> <p>2. 環境調整の援助は病院見学を通して学んだことを含め、安全・快適性の視点から考えましょう。</p> <p>3. 活動の援助は患者の身体に触れる機会の多い援助です。患者体験を通して患者への配慮を考え安全・安楽・自立の視点から援助を考えていきましょう。</p> <p>4. 患者の苦痛を緩和する援助を通して、患者における適切な活動や休息の取り方を考えていきましょう。</p> <p>5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。</p> <p>&lt;参考資料&gt;・看護がみえる1 基礎看護技術 (メディックメディア)</p>				
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目の試験・技術試験・課題それぞれ60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。</li> <li>・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。</li> <li>・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。</li> <li>・技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。</li> </ul>			試験	環境30 活動30	
				技術試験	40	
				合計	100	

科目名	生活援助技術Ⅱ 「食事」「排泄」		単位(時間)	1(20)	28期生	DP	
担当講師名	三輪 翼 [看護師]			1年		1・2・4	
				前期・後期			
ねらい	1. 患者が安全に食事をするための援助方法を習得し、食事の意義と看護の役割を理解できる。 2. 患者にとって安全・安楽な排泄の援助方法を習得し、排泄の意義と看護の役割を理解できる。						
科目目標	①人間にとっての食事の意義・基礎知識を理解できる。 ②対象に応じた食事介助の方法を考えられる。 ③非経口的栄養摂取の援助を知る。 ④人間にとっての排泄の意義を理解できる。 ⑤対象に応じた排泄の援助方法を考えられる。 ⑥排泄の援助を受ける対象の気持ちを考えられる。						
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考	
	1	食事援助の基礎知識	1. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント		三輪	講義	
	2 3	食事摂取の援助	1. 食事介助の基礎知識 2. 食事介助の実際 3. 事例患者の食事援助の実際 患者に合った食事援助の方法を考える。			講義・演習 (基礎実習室)	
	4	非経口的栄養摂取の援助 食事の意義と看護の役割	1. 経管栄養法 2. 中心静脈栄養法 3. 食事の意義、看護の役割			講義 グループワーク (基礎実習室)	
	5	自然排尿・自然排便への援助	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 2. 排泄援助のアセスメント 排泄用具の種類と特徴 3. 排便・排尿障害の種類と看護			講義・演習 (基礎実習室)	
	6	浣腸	1. 浣腸の原理・原則 2. グリセリン浣腸施行時の看護 3. 浣腸の実際			演習 (基礎実習室)	
	7 8	導尿	1. 導尿の原理・原則 2. 一時的導尿施行時の看護 3. 一時的導尿の実際 4. 持続的導尿時の看護			演習 (基礎実習室)	
	9	排泄の意義と看護の役割	1. 排泄の意義、看護の役割			講義 グループワーク	
	10		試験				
	テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					
学習を支える情報	1. これまで習得した活動・安楽・感染予防の技術を活かしましょう。 2. 排泄の援助はプライバシーに配慮することが大切です。体験を通して患者の気持ちを考え患者の羞恥心に配慮した援助を考えましょう。 3. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。  <参考資料> ・看護がみえる 1 基礎看護技術 (メディックメディア) ・看護がみえる 2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
評価	・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。				試験	食事50	
					合計	排泄50 100	

科目名	生活援助技術Ⅲ 「清潔」		単位(時間)	1(30)	28期生	DP			
担当講師名	實方 美保子 [看護師]				1年 後期	1・2・4			
ねらい	患者にとって安全・安楽な清潔の援助方法を習得し、清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解する。								
科目目標	① 清潔を保つための援助方法が理解できる。 ② 安全で心地よい清拭・寝衣交換の援助方法が習得できる。 ③ 対象をアセスメントしながら、安全・安楽・自立を考慮した援助方法を考え、提供できる。 ④ 清潔・衣生活の意義が理解できる。								
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考			
	1	清潔・衣生活とは	1. 「清潔」とは 2. 清潔の援助の基礎知識		實方	講義			
	2	清潔援助の実際	心地よい清潔とは			講義・演習 グループワーク (基礎実習室)			
	3		口腔ケア						
	4		寝衣交換						
	5 6		洗髪						
	7 8		清拭						
	9		足浴						
	10 11		陰部洗浄						
	12 13		対象の状態に合わせた清潔援助	患者の状態に合わせた清潔援助の方法を考える。			グループワーク		
	14		清潔・衣生活の意義と看護の役割	1. 清潔・衣生活の意義 2. 看護の役割			講義 グループワーク		
	15		試験						
	テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院)							
	学習を支える情報	1. 基本技術Ⅰ・Ⅱ、生活援助技術Ⅰ～Ⅱで習得した技術を活用しながら、対象にとって安全・安楽・自立を考慮した清潔援助を考えていきましょう。 2. 基礎科目、専門基礎科目で学んだ内容を、患者の身体面・精神面・社会面への理解につなげていきましょう。 3. 学生が患者役となり、学習をしていきます。看護師として安全・安楽・自立を考慮した清潔援助の方法だけでなく、清潔援助を受ける患者の気持ち(保温・羞恥心への配慮など)患者が心地よいと感じるような援助を目指していきましょう。 4. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。  <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア)							
	評価	・演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが演習参加の条件である。 ・技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。					試験	70	
課題							30		
合計						100			



科目名	生活援助技術Ⅳ 様々な状態にある人の援助		単位(時間)	1(25)	28期生	DP		
担当講師名	實方 美保子 [看護師] 他				1年	1・2・4		
					後期			
ねらい	様々な状態にある人の看護について安全・安楽・自立の視点で考え実践できる。							
科目目標	患者を捉え、患者の思いやその時々状況に応じた看護を実践できる。							
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考		
	1	ガイダンス	ビジョン・ゴール 戦略の確認		實方 他	講義		
	2 3	対象に合わせた援助について考える (ケース1)	・事例紹介 ・様々な状況に合わせた看護援助の実際			講義・演習 グループワーク (基礎実習室)		
	4 5							
	6							
	7 8	対象に合わせた援助について考える (ケース2)	・事例紹介 ・様々な状況に合わせた看護援助の実際				講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	9 10							
	11							
	12	様々な状態にある患者の看護について考える	発表準備・発表・まとめ					講義・演習 (基礎実習室)
	13	技術試験						講義・演習 (基礎実習室)
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 臨床看護総論							
参考書資料等	<p>1. この科目ではこれまで習得した基本技術Ⅰ・Ⅱ、生活援助技術Ⅰ～Ⅲで学んだことを参考に、対象の生活に合わせた援助を実施していきます。 対象の生活を想起しながら、必要な看護援助を安全・安楽・自立の視点に沿って考えていきましょう。</p> <p>2. パフォーマンス課題では、対象に合わせた看護援助について考え、患者にとってより良い方法を考えていきましょう。また、グループで意見交換し、自己の考えを広げましょう。</p> <p>3. 看護は知識だけでなく、確実な技術も必要とされます。リフレクションを活用して自己の技術を振り返りながら、より患者にあった看護技術が提供できるよう研鑽していきましょう。</p> <p>4. 単元の最後の時間に様々な状態にある患者の看護についてグループワークと発表を行います。演習を通して考えたことや、より患者にあった看護について他者と共有し、自己の考えを深めましょう。</p> <p>&lt;参考資料&gt; ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア)</p>							
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目の課題・技術試験それぞれ60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。</li> <li>・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。</li> <li>・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。</li> <li>・技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。</li> </ul>				技術試験	40		
					課題	60		
					合計	100		

科目名	診療に伴う援助技術 I	単位(時間)	1(15)	28期生	DP
担当講師名	田村 美幸 [看護師]			1年	1・2・4
				後期	
ねらい	安全・安楽な診療の補助技術を習得し、看護の役割を理解できる。				
科目目標	①呼吸・循環を整える援助の意義が理解できる。				
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考
	1	呼吸・循環を整える技術と看護	1. 吸入療法 2. 酸素療法(酸素吸入)	田村	講義
	2				講義・演習 (基礎実習室)
	3				
	4	1. 排痰ケア(体位ドレナージ) 2. 口腔・鼻腔吸引 3. 吸入・吸引療法における看護の役割	講義		
	5 6		講義・演習 グループワーク		
	7	体温管理の技術(罨法)	講義		
	8	試験			
テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				
学習を支える情報	<p>1. 呼吸・循環の解剖生理学や形態機能学を復習し、技術に活かしましょう。</p> <p>2. 吸入・吸引は清潔・汚染の区別が重要です。感染予防の技術を活かして演習に臨みましょう。</p> <p>3. 吸引は患者の苦痛を伴うことがあるため、安全であると同時に安楽に技術を提供することが大切です。安楽に援助を行うための工夫も考えましょう。</p> <p>4. 体温管理の技術では、形態機能学の学習をもとに援助技術を学んでいきましょう。</p> <p>5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。</p> <p>&lt;参考資料&gt; ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア)</p>				
評価	演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。技術を伴う演習は、全て出席することで試験を受けられる。			試験	100

科目名	診療に伴う援助技術Ⅱ	単位(時間)	1(20)	27期生	DP
担当講師名	柳澤 いずみ [看護師]			2年	1・2・4
				前～後期	
ねらい	安全・安楽な診療の補助技術を習得し、看護の役割を理解できる。				
科目目標	①検査や処置に必要な基礎的知識を理解し、検査時の介助や看護師の役割が理解できる。 ②検体検査に必要な基礎的知識を理解し、静脈血採血の技術が習得することができる。 ③与薬に必要な基礎的知識を理解し与薬の種類に応じた技術が習得できる。				
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考
	1	診察・検査・処置における技術	1. 検査の概要と種類 2. 検査時の介助と看護師の役割 3. 検体の取り扱い	柳澤	講義 グループワーク
	2	検体検査と看護	1. 検体検査時の援助の基礎知識 2. 静脈血採血の実際		講義・演習 (基礎実習室)
	3	与薬と看護	1. 与薬に伴う基礎知識 2. 与薬の種類 3. 経口与薬 4. 点眼・点鼻・経皮与薬		講義
	4		1. 直腸内与薬 1) 準備 2) 援助の実際		講義・演習 (基礎実習室)
	5	注射法と看護	1. 注射法とは 1) 目的・適応 2) 法的背景 3) 種類		講義
	6		2. 筋肉内注射・皮下注射 1) 準備 2) 援助の実際		演習 (基礎実習室)
	7		3. 静脈内注射 1) 準備 2) 援助の実際		
	8		輸血療法 1) 種類と取り扱い 2) 管理方法 3) 副作用の観察		講義
	9	薬物療法における看護師の役割	薬物療法における看護師の役割と原則		講義 グループワーク
10		試験			
テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 臨床看護総論 (医学書院) 臨床薬理 (医学書院)				
参考書資料等	1. 基礎科目、専門基礎科目で学んだことを活かしましょう。与薬では薬理学での学びが必要となります。 2. これまで習得した感染予防の技術を活かしましょう。 3. 診療の補助技術は患者の苦痛を伴うことがあるため、安全であると同時に安楽に技術を提供することが大切です。安楽に援助を行うための工夫も考えましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア)				
評価	演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。 技術を伴う演習は、全て出席することで試験を受けられる。			試験	100

科目名	看護の研究的視点	単位(時間)	1(15)	27期生	DP
担当講師名	原田 静香[看護師・保健師・非常勤講師] 仲里 良子[看護師・保健師・非常勤講師]			2年次	2・4
				後期	
ねらい	看護研究とは何かを理解し、事例研究をまとめ上げることで看護研究が実施できる基盤を身につける。				
科目目標	①看護研究の特徴と種類を学び、研究を展開するための基本的なプロセスを理解する。 ②看護学の論文のクリティークを通し、課題を具体化し、看護活動への研究的アプローチ方法を理解する。 ③事例研究を行うことにより、自己の持つ目的、動向、課題を研究的な視点から理解する。				
授業内容	次	内容		担当者	備考
	1 2	看護研究のプロセスと看護学研究法	看護研究とは 研究のプロセス	原田	講義
			文献検索と文献検索方法の実際		演習 課題学習
	3 4	量的研究とは	量的研究とは 量的研究の意義と研究デザイン 量的研究の実際	仲里	講義
	5 6	質的研究とは	質的研究とは 質的研究の意義と研究デザイン 質的研究の実際		講義
	7 8	論文クリティーク	論文のクリティークとは① クリティークの視点 グループ討議	仲里	講義 グループワーク
			論文のクリティーク② グループ発表		講義
	テキスト	松本孚 他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)			
参考書資料等	これからの看護研究—基礎と応用— 小笠原知枝・松木光子 編 NOUVELLE HIROKAWA 文献検索は、PC室、図書室で演習します。				
評価				レポート	60
				提出・発表	40
				合計	100

科目名	看護を知る実習	単位(時間)	1(30)	28期生	DP
担当講師名	市原 蕙美[看護師] 他			1年	1・2・3・4
				前期	
ねらい	様々な場面における看護体験をとおして「看護」とは何かを考え、看護師らしく行動するための姿勢と対象を理解する力を養う。				
科目目標	看護場面の見学や体験をとおして、看護とは何かを意味づけることができる。また、看護師らしく考えようとするために必要な知識・技術・態度がわかる。				
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】 小張総合病院、キッコーマン総合病院、野田病院 他				
	日程	内容	方法		臨地/学内
	1	全体オリエンテーション	実習に向けた心構えや臨地実習を効果的に行うための準備をする。		学内
	2	フロアオリエンテーション			
	3	臨地オリエンテーション	実際の臨地場面のオリエンテーションを受け、実習に向けての準備をする		臨地・施設
	4	シミュレーション学習	実習場面をイメージしながら学習の準備をする		学内
	5 6 7	臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師と一緒に行動し、看護師の動きや対象者との関わりなど看護の実践場面を見学する。</li> <li>・看護師との対話から看護師の気づき、看護実践の意味づけや看護に必要な気づきや対象の捉え方について考える。</li> <li>・リフレクションから看護とは何か、看護師の役割について考える。</li> </ul>		臨地・施設
	8	学内・リフレクション	実習での学びを共有しながら、看護師の思考を確認する		学内
	9	学内・再構築 評価			
	テキスト	・基礎看護技術 I、II (医学書院)・成人看護学(医学書院) ・老年看護学(医学書院)			
学習を支える 情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。</li> <li>2. 様々な実習場所へ行き、看護の対象者と関わります。オリエンテーションやシミュレーション学習を参考に、看護師の行動の意味付けや思考、対象者の理解について深めていきましょう。</li> <li>3. 初めての看護実習です。看護への関心を持つと共に看護学生としての責任を持った行動をとりましょう。</li> <li>4. 実習の学びは臨地での実習終了後のまとめで深まります。学びを深め、今後の学習につなげていきましょう</li> </ol>				
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席となる。</li> <li>・実習評価は、ルーブリックにより総合的に行う。</li> <li>・提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。</li> </ul>				

科目名	基礎看護学実習 I	単位 (時間)	1 (45)	28期生	DP
担当講師名	市原 篤美[看護師] 他	1年		1・2・3・4	
		後期			
ねらい	患者の思いや生活、対象にあった援助について考え、対象を捉える視点や日常生活援助の方法を考え、実施する能力を養う。				
科目目標	健康を障害された対象の思いや状態に合わせた援助の実践を通して、生活を整える看護の必要性和看護師の役割を理解する。				
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】東京慈恵会医科大学附属柏病院				
	日程	内容	方法		臨地/学内
	1	全体オリエンテーション	・実習に向けた心構えや臨地実習を効果的に行うための準備をする。		学内
	2	実習オリエンテーション ビジョン・ゴールの設定			
	3	フロアオリエンテーション			
	4   8	病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 看護実践	・患者を1名受け持ち実習する。 ・患者と関係構築を図りながら患者の思いを捉える。そして、必要な援助を考え患者に合った方法で実践する。 ・カンファレンス(日々・最終)を通して学びを共有しその後の看護実践に活かす。		臨地
	9	再構築	・実習で得た看護の経験を振り返り、グループワークによって知の共有と看護の理解を深める。 ・自己の成長を俯瞰するとともに実習で獲得した価値ある知と課題を明確する。		学内
	10				
11	対話				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術 I II (医学書院)    ・臨床看護総論(医学書院)</li> <li>・解剖生理学 (医学書院)        ・成人看護学 (医学書院)</li> </ul>				
学習を支える情報	<p>1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。</p> <p>2. これまで学習してきた基本技術 I ・生活援助技術を復習しておくこと実習に活かします。フィジカルアセスメント技術・バイタルサインの測定や日常生活の援助技術は学内で十分練習しておきましょう。</p> <p>3. 初めて患者を受け持ち、実習指導者と共に援助を行います。看護への関心を持つと共に看護学生として責任を持った行動をとりましょう。</p> <p>4. 実習の学びは臨地での実習終了後のまとめで深まります。学びを深め、今後の学習につなげていきましょう。</p> <p>&lt;参考資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア)</li> <li>・看護がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア)</li> <li>・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)</li> </ul>				
評価	<p>1. 成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席とする。</p> <p>2. 実習評価は、ルーブリックにより総合的に行う。</p> <p>3. 提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。</p>				

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位(時間)	2(90)	27期生	DP
担当講師名	市原 篤美[看護師] 他			2年次	1・2・3・4
				前期	
ねらい	健康を障害された対象の願いを捉え刻々と変化する対象の状況に合わせ願いに向けた看護を実践する。				
科目目標	1. 刻々と変化をする対象の状況に合わせた看護の実践をすることができる。 2. 対象の願いを捉える意味と願いに向けた看護の必要性がわかる。				
授業内容	<b>【実習場所】</b> 東京慈恵会医科大学附属柏病院 <b>【実習スケジュール】</b>				
	日程	実習内容	方法		臨地/学内
	1	全体オリエンテーション 基礎オリエンテーション 実習準備	・実習の目的を理解し、臨地実習を効果的に行うための準備をする。		学内
	2   4	病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 看護実践	・患者1名を受け持ち実習する。 ・健康障害にある対象を理解し、対象の願いを捉えた上で日々の状態や変化に応じた看護を実践する。 ・カンファレンス(中間)を通して学びを共有しその後の看護実践に活かす。		臨地
	5	思考の整理	・学内で思考の整理を行い、患者に必要な看護を考える。		学内
	6   10	看護実践	・患者の願いを捉え、願いに向けた看護を実践する。 ・カンファレンス(最終)では、患者の願いに向けた看護とは何かについて考える。		臨地
	11   12	実習俯瞰 再構築	・実習で得た看護の経験を振り返り、グループワークによって知の共有と看護の理解を深める。 ・自己の成長を俯瞰するとともに実習で獲得した価値ある知と課題を明確する。		学内
テキスト	基礎看護技術ⅠⅡ(医学書院)・臨床看護総論(医学書院) 他				
学習を支える情報	1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. 看護の展開技術Ⅰ・Ⅱ、思考過程論で学習した内容を活かして実習に臨みましょう。 3. 実習では、形態機能学の知識だけでなく疾患や治療の理解も必要です。これまで習得してきた知識を活かし、疑問点や課題を明確にし、解決していけるようにしていきましょう。 4. 臨地での実習終了後、看護実践を俯瞰しそこから得た学びを他者に伝えることで学びが深まります。再構築を通して自己の看護について深め、今後の課題を明確にしていきましょう。 5. この実習は今後行われる領域別実習の基盤となります。実習での学び方や自己の学習の仕方にも身をつけていきましょう。 <参考文献> ・看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版(学研) ・看護がみえる1 基礎看護技術 ・看護がみえる2 臨床看護技術 ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア) ・専門基礎分野や専門分野のテキスト(解剖生理学・薬理学・成人看護学・老年看護学など) 他				
評価	1. 成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席とする。 2. 実習評価は、実習要綱のルーブリックにより総合的に行う。 3. 提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。				